

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月9日

【四半期会計期間】 第78期第2四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

【会社名】 エルナー株式会社

【英訳名】 ELNA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 吉田 秀俊

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目8番11号

【電話番号】 045—470—7253

【事務連絡者氏名】 取締役上席執行役員経営企画部長 安藤 正直

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目8番11号

【電話番号】 045—470—7253

【事務連絡者氏名】 取締役上席執行役員経営企画部長 安藤 正直

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

目 次

	頁
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
① 株式の総数	4
② 発行済株式	4
(2) 新株予約権等の状況	9
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	9
(4) ライツプランの内容	9
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	9
(6) 大株主の状況	10
(7) 議決権の状況	11
① 発行済株式	11
② 自己株式等	11
2 役員の状況	11
第4 経理の状況	12
1 四半期連結財務諸表	13
(1) 四半期連結貸借対照表	13
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	15
四半期連結損益計算書	15
第2 四半期連結累計期間	15
四半期連結包括利益計算書	16
第2 四半期連結累計期間	16
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	17
追加情報	18
注記事項	18
セグメント情報	20
2 その他	22
第二部 提出会社の保証会社等の情報	23
第1 保証会社情報	23
1 保証の対象となっている社債	23
2 継続開示会社たる保証会社に関する事項	23
(1) 保証会社が提出した書類	23
① 有価証券報告書及びその添付書類又は四半期報告書若しくは半期報告書	23
② 臨時報告書	23
③ 訂正報告書	23
(2) 上記書類を縦覧に供している場所	23
3 継続開示会社に該当しない保証会社に関する事項	23
第2 保証会社以外の会社の情報	23
第3 指数等の情報	23
監査報告書	24

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第2四半期連結 累計期間	第78期 第2四半期連結 累計期間	第77期
会計期間	自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日
売上高 (百万円)	15,163	13,339	28,778
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	128	△701	404
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失(△) (百万円)	218	△731	529
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	182	△668	548
純資産額 (百万円)	3,923	3,601	4,294
総資産額 (百万円)	26,643	25,239	24,543
1株当たり四半期(当期)純 利益又は四半期純損失(△) (円)	5.24	△17.59	12.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	3.85	—	8.82
自己資本比率 (%)	14.5	14.2	17.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,107	517	2,117
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△624	△851	△882
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	860	385	△654
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,779	2,136	2,113

回次	第77期 第2四半期連結 会計期間	第78期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日
1株当たり四半期純利益又 は四半期純損失(△) (円)	3.61	△3.08

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 第78期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

3 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(平成25年1月1日～平成25年6月30日)のわが国経済は、経済対策や金融政策効果の期待感や円安基調の継続などにより景気回復の機運は高まっているものの、实体经济の回復には至っておらず、欧州経済の低迷や中国経済の成長鈍化など、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、連結売上高133億3千9百万円(前年同四半期比12.0%減)、連結営業損失2億7千2百万円(前年同四半期は連結営業利益4億9千3百万円)、連結経常損失7億1百万円(前年同四半期は連結経常利益1億2千8百万円)、連結四半期純損失7億3千1百万円(前年同四半期は連結四半期純利益2億1千8百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

コンデンサ事業におきましては、車載関連での米国での好調が維持していることに加え、グローバルな受注活動の成果により欧州車載関連への売上が拡大していることから、連結売上高は50億6千8百万円(前年同四半期比11.0%増)となりましたが、コスト低減や生産性向上に努めたものの海外工場の賃金上昇などにより、連結営業利益2億9千6百万円(前年同四半期比3.7%減)となりました。

プリント回路事業におきましては、車載関連において昨年は国内のエコカー補助金などにより部品需要が高い水準でありましたが、その後の終了と中国での日本車販売低迷による部品需要の減少からの回復が遅いことや製品価格競争の激化などにより、連結売上高82億7千万円(前年同四半期比22.0%減)、連結営業損失5億6千9百万円(前年同四半期は連結営業利益1億8千5百万円)となりましたが、固定費削減やコスト低減などの諸施策を実施し第2四半期の収益は回復傾向となっております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ流動資産が1億5千8百万円増加し、固定資産が5億3千8百万円増加した結果、252億3千9百万円となりました。この主な要因は受取手形及び売掛金の増加6億6千4百万円、たな卸資産の減少5億3千3百万円、有形固定資産の増加5億5百万円によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ流動負債が1億7千2百万円増加し、固定負債が12億1千7百万円増加した結果、216億3千8百万円となりました。この主な要因は借入金金の増加12億7千万円、社債の減少5億3千4百万円によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、四半期純損失の計上などにより、前連結会計年度末に比べ6億9千3百万円減少し、36億1百万円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の17.4%から14.2%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ、2千3百万円増加し、21億3千6百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、5億1千7百万円（前年同四半期は11億7百万円の収入）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純損失が7億7百万円でしたが、減価償却費が8億3千1百万円あり、たな卸資産が8億6千8百万円減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は、8億5千1百万円（前年同四半期は6億2千4百万円の支出）となりました。この主な要因は、固定資産の取得による支出8億3千9百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果得られた資金は、3億8千5百万円（前年同四半期は8億6千万円の収入）となりました。この主な要因は、長期借入れによる収入38億3千万円、長期借入金金の返済による支出26億7百万円および社債の償還による支出5億3千4百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億7千1百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況の重要な変更は、次のとおりです。

（コンデンサ事業）

・電気二重層コンデンサ

今回コイン形において、 -40°C から $+85^{\circ}\text{C}$ と広温度範囲の1000時間保証で、最大使用電圧5.5V、リフロー温度 260°C に対応したDVLシリーズを新たに上市しました。また、保証時間を 85°C 3000時間に延ばしたDHCシリーズも上市し、拡大が期待されるスマートメーターのメモリーバックアップ用途に採用が検討されています。円筒形中容量品は、従来よりドライブレコーダーや、車のドアのラッチシステムバックアップ用途等の車載電装品に使用されていますが、アイドリングストップ等のエネルギー回生用蓄エネデバイスとして、大容量電気二重層コンデンサの本格的な車載電装用途への検討要求が活発化しており、単セルで3000F級大容量品の小形低抵抗・低コスト化の実現に向けて開発に注力しております。

・導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ

デジタル家電・パソコン・カーナビゲーション等のデジタル機器用途向けとして、業界トップレベルの低ESR・高容量化・高リプル化を図ったPVH、PVM、PVX、PVGの各シリーズを供給しておりますが、今回新たに、チップ型耐リフロー品で世界最低背の高さ4.0mmのPV3シリーズの開発を終了し、超薄型パソコン用途向けに拡販を開始いたしました。

車載電装用途としては、PVSシリーズの35V、50V、63Vの高圧高容量品を供給しておりますが、加えて、導電性ポリマーと電解液を併用した高付加価値のハイブリッドキャパシタの開発にも着手し、早期上市をめざしております。

なお、非固体アルミ電解コンデンサについては、重要な変更はありません。

プリント回路事業における研究開発活動の状況には重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	67,800,000
A種優先株式	15,000,000
計	82,800,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	41,611,458	41,611,458	東京証券取引所 (市場第二部)	(注) 1
A種優先株式	15,000,000	15,000,000	—	(注) 2
計	56,611,458	56,611,458	—	—

(注) 1 普通株式は、全て議決権を有しており、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。

2 A種優先株式の内容は以下のとおりであります。

(1) 単元株式数 1,000株

(2) A種優先配当金

(イ) 当会社は、剰余金の配当をするときは、当該配当の基準日の最終の株主名簿に記載または記録されたA種優先株式を有する株主（以下、「A種優先株主」という。）またはA種優先株式の登録株式質権者（以下、「A種優先登録株式質権者」という。）に対し、同日の最終の株主名簿に記載または記録された当会社の普通株式（以下、「普通株式」という。）を有する株主（以下、「普通株主」という。）または普通株式の登録株式質権者（以下、「普通登録株式質権者」という。）に先立ち、A種優先株式1株につき2円（以下、「A種年間優先配当額」という。）に、当該基準日が属する事業年度の初日（同日を含む。）から当該配当の基準日（同日を含む。）までの日数を乗じ365（当該事業年度が閏年の場合には366とする。）で除して得られる割合を乗じた額の配当（以下、「A種優先配当」という。）をする。ただし、すでに当該事業年度に属する日を基準日とするA種優先配当をしたときは、かかるA種優先配当の累積額を控除した額とする。

(ロ) ある事業年度において、A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対してした剰余金の配当の額がA種年間優先配当額に達しないときは、その不足額は翌事業年度以降に累積しない。

(ハ) A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対しては、A種年間優先配当額を超えて剰余金の配当をしない。ただし、当社が吸収分割をする場合において会社法（平成17年法律第86号）第758条第8号ロもしくは同法第760条第7号ロに規定する剰余金の配当をするとき、または当社が新設分割をする場合において同法第763条第12号ロもしくは同法第765条第1項第8号ロに規定する剰余金の配当をするときに、A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対してA種年間優先配当額を配当した後、普通株主または普通登録株式質権者に対して剰余金の配当をするときは、同時に、A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対して、A種優先株式1株当たり、普通株式1株当たりの剰余金の配当額と同一額の配当をする。

(3) 残余財産の分配

当社の残余財産を分配するときは、A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対し、普通株主または普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株につき100円を支払う。A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対しては、前記のほか残余財産の分配は行わない。

(4) 議決権

A種優先株主は、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会において議決権を有しない。なお、議決権に差異を設けた理由は、当社の資金調達手段の選択肢を広げるためである。

(5) 転換請求権

A種優先株主は、下記の転換請求期間中、下記に定める転換の条件で、当社に対して、A種優先株式を取得することを請求することができるものとし、当社は、A種優先株主が取得の請求をしたA種優先株式を取得するのと引換えに、当社の普通株式を当該A種優先株主に対して交付する（以下「転換」という。）ものとする。

① 転換請求期間

A種優先株式の転換を請求し得べき期間（以下、「転換請求期間」という。）は、平成18年10月1日から平成28年3月31日までとする。

② 転換の条件

(ア) 当初転換価額

当初転換価額は、100円とする。

(イ) 転換価額の調整

(a) 以下の(i)ないし(iv)のいずれかに該当する場合には、転換価額を次に定める算式（以下、「転換価額調整式」という。）により調整し、以下の(v)に該当する場合には、転換価額を(v)に定めるところに従い調整する。転換価額調整式を用いる計算については、円位未満小数第1位まで算出し、その小数第1位を切り上げる。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{(\text{既発行普通株式数} - \text{自己株式数}) + \frac{\text{新規発行普通株式数} \times \text{1株あたりの払込金額}}{\text{1株あたりの時価}}}{(\text{既発行普通株式数} - \text{自己株式数}) + \text{新規発行普通株式数}}$$

- (i) 転換価額調整式に使用する時価を下回る金額をもって普通株式を発行または当社が保有する普通株式（以下、「自己株式」という。）を処分する場合（無償割当ての場合を含むが、普通株式の交付と引換えに取得される株式もしくは新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。以下本(イ)において同じ。）の取得による場合または普通株式を目的とする新株予約権の行使による場合を除く。）

調整後の転換価額は、払込期日（払込期間を定めた場合には当該払込期間の最終日。無償割当ての場合にはその効力が生じる日。以下本(a)において同じ。）の翌日以降、または株主への割当てにかかる基準日を定めた場合は当該基準日（無償割当てにかかる基準日を定めた場合には当該基準日。）（以下、「株主割当日」という。）がある場合はその日の翌日以降これを適用する。なお、自己株式の処分の場合には、転換価額調整式における「新規発行普通株式数」は「処分自己株式数」、「1株あたりの払込金額」は「1株あたりの処分価額」、「自己株式数」は「処分前自己株式数」とそれぞれ読み替える。

- (ii) 株式の分割をする場合

調整後の転換価額は、株式の分割にかかる基準日の翌日以降これを適用する。なお、この場合、転換価額調整式における「（既発行普通株式数－自己株式数）」は「既発行普通株式数」、「新規発行普通株式数」は「株式の分割により増加する普通株式数」とそれぞれ読み替える。

ただし、分配可能額から資本に組み入れられることを条件としてその部分をもって株式の分割をする旨取締役会で決議する場合であり、かつ当該分配可能額の資本組入の決議をする株主総会の終結の日以前の日を株式の分割にかかる基準日とする場合には、調整後の転換価額は、当該分配可能額の資本組入の決議をした株主総会の終結の日の翌日以降これを適用する。なお、上記但書の場合において、株式分割にかかる基準日の翌日から当該分配可能額の資本組入の決議をした株主総会の終結の日までに転換を請求した者に対しては、次の算出方法により、当社の普通株式を発行する。

$$\text{株式数} = \frac{(\text{調整前転換価額} - \text{調整後転換価額}) \times \frac{(\text{調整前転換価額をもって転換により当該期間内に発行された株式数})}{\text{調整後転換価額}}}{\text{調整後転換価額}}$$

- (iii) 転換価額調整式に使用する時価を下回る価額をもって普通株式の交付と引換えに当社に取得される株式、新株予約権もしくはその他の証券または当社に対して取得を請求できる株式、新株予約権もしくはその他の証券を発行もしくは処分する場合（無償割当ての場合を含む。）、または権利行使により転換価額調整式に使用する時価を下回る価額をもって普通株式又は普通株式の交付と引換えに当社に取得される株式その他の証券もしくは当社に対して取得を請求できる株式その他の証券の交付を受けることができる新株予約権を発行する場合（無償割当ての場合も含む。）

調整後の転換価額は、かかる株式、新株予約権もしくはその他の証券の払込期日（新株予約権の場合は割当日。以下本(a)において同じ）に、無償割当ての場合にはその効力が生じる日（無償割当てに係る基準日を定めた場合は当該基準日。以下本(a)において同じ。）に、また、株主割当日がある場合はその日に、発行または処分される株式、新株予約権、またはその他の証券の全てが当初の条件で取得又は行使等され普通株式が交付されたものとみなし、その払込期日の翌日以降、無償割当ての場合にはその効力が生ずる日以降、また株主割当日がある場合にはその翌日以降これを適用する。以後の調整においては、かかるみなし株式数は、実際に当該取得または新株予約権の行使がなされた結果発行

された株式数を上回る限りにおいて既発行の普通株式数に算入される（下記(iv)も同様とする。）。

- (iv) 普通株式の交付と引換えに当社に取得される株式その他の証券もしくは当社に対して取得を請求できる株式その他の証券の交付を受けることができる新株予約権または普通株式を目的とする新株予約権であって、取得の価額または新株予約権の行使に際して出資される財産の1株当たりの価額がかかる新株予約権の割当日において確定しておらず後日一定の日（以下、「価額決定日」という。）の価額を基準として確定されるものを発行（無償割当ての場合を含む。）した場合において、決定された取得の価額または新株予約権の行使に際して出資される財産の1株あたりの価額が転換価額調整式に使用する時価を下回る場合、調整後の転換価額は、当該価額決定日に残存する当該株式の全てが転換または全ての新株予約権が行使されたものとみなし、価額決定日の翌日以降これを適用する。
- (v) 普通株式の併合をするときは、株式の併合の効力発生の時をもって次の算式により、転換価額を調整する。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{併合前発行済普通株式数}}{\text{併合後発行済普通株式数}}$$

- (b) 上記(a)に掲げる場合のほか、合併、株式交換、株式交換による他の株式会社の発行済株式の全部の取得、株式移転または会社の分割等その他普通株式の発行済株式数の総数（但し、当社が保有する普通株式の数を除く。）の変更または変更の可能性を生じる事由の発生により転換価額の調整を必要とする場合には、取締役会が合理的と判断する転換価額に調整する。
- (c) 転換価額調整式に使用する1株あたりの時価とは、調整後転換価額を適用する日（但し、上記(a)(ii)但書の場合には当該基準日）に先立つ45取引日目に始まる30取引日の株式会社東京証券取引所における普通株式の普通取引の毎日の終値（気配表示がある場合は気配表示を含む。）の平均値（終値のない日数を除く。）とし、その計算は円位未満小数第1位まで算出し、その小数第1位を四捨五入する。なお、上記45取引日の間に、上記(a)または(b)で定める転換価額の調整事由が生じた場合には、当該平均値は、上記(a)または(b)に準じて取締役会が合理的と判断する値に調整される。
- (d) 転換価額調整式に使用する調整前転換価額は、調整後転換価額を適用する前日において有効な転換価額とし、また、転換価額調整式に使用する既発行普通株式数は、株主割当日がある場合はその日、もしくは株主割当日がない場合は調整後転換価額を適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式数とする。
- (e) 転換価額調整式に使用する1株あたりの払込金額とは、それぞれ以下のとおりとする。
- (i) 上記(a)(i)の転換価額調整式に使用する時価を下回る金額をもって普通株式を発行または自己株式を処分する場合（普通株式の交付と引換えに取得される株式もしくは新株予約権の取得による場合または普通株式を目的とする新株予約権の行使による場合を除く。）には、当該払込金額または処分価額（金銭以外の財産による払込みの場合にはその適正な評価額）。なお、当該普通株式を無償割当てする場合には0円とする。
- (ii) 上記(a)(ii)の株式の分割をする場合は0円

- (iii) 上記(a)(iii)の転換価額調整式で使用する時価を下回る価額をもって普通株式の交付と引換えに当会社に取得される株式、新株予約権もしくはその他の証券または当会社に対して取得を請求できる株式、新株予約権もしくはその他の証券を発行もしくは処分する場合(無償割当ての場合を含む。)、または上記(a)(iii)で定める内容の新株予約権を発行する場合(無償割当ての場合を含む。)は、当該取得の価額または当該新株予約権の行使に際して出資される財産の1株あたりの価額
- (iv) 上記(a)(iv)の場合は、価額決定日に決定された取得の価額または新株予約権の行使に際して出資される財産の1株あたりの価額
- (f) 転換価額調整式により算出された調整後転換価額と調整前転換価額との差額が1円未満にとどまるときは、転換価額の調整はこれを行わない。ただし、その後転換価額の調整を必要とする事由が発生し、転換価額を算出する場合には、転換価額調整式中の調整前転換価額に代えて調整前転換価額からこの差額を差し引いた額を使用する。

③ 転換により交付すべき普通株式数

$$\text{転換により交付すべき普通株式数} = \frac{\text{A種優先株主が転換請求のために提出したA種優先株式の発行価額の総額}}{\text{転換価額}}$$

転換により交付すべき普通株式数の算出にあたっては、1株に満たない端数が生じたときは、これを切り捨てる。

(6) 一斉転換条項

当社は、転換請求期間中に転換請求のなかったA種優先株式を、同期間の末日の翌日(以下、「一斉転換基準日」という。)をもって、A種優先株式1株の払込金額相当額を、一斉転換基準日において有効な転換価額で除して得られる数の普通株式と引換えに取得する。上記の普通株式の数の算出に当たって、1株に満たない端数が生じたときは、会社法第234条に従いこれを取り扱う。

(7) 株式の併合または分割、募集株式の割当て等

当社は、A種優先株式について株式の併合または分割を行わない。また、当社は、A種優先株主に対し、募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えず、また株式無償割当てまたは新株予約権無償割当ては行わない。

(8) 種類株主総会の決議

種類株主総会の決議を要しない旨の定款の定めはない。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	—	普通株式 41,611,458 優先株式 15,000,000	—	3,508	—	496

(6) 【大株主の状況】

所有株式数別

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本産業第二号投資事業有限責任組合	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	27,512 (13,756)	48.59
旭硝子株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目5番1号	6,653	11.75
日本産業第二号パラレル投資事業有限責任組合	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	2,488 (1,244)	4.39
新木産業株式会社	滋賀県長浜市高月町森本95番地	1,663	2.93
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	1,256	2.21
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,060	1.87
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	500	0.88
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	339	0.59
木下 武彦	滋賀県長浜市	314	0.55
大塚 裕司	東京都新宿区	278	0.49
計	—	42,064 (15,000)	74.30

(注) 1. 所有株式数の()内は内書きでA種優先株式数であります。

2. 株式会社みずほコーポレート銀行は平成25年7月1日付で株式会社みずほ銀行と合併し、株式会社みずほ銀行となっております。(以下、同じ)

所有議決権数別

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権 に対する 所有議決権数 の割合(%)
日本産業第二号投資事業有限責任組合	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	13,756	33.11
旭硝子株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目5番1号	6,653	16.01
新木産業株式会社	滋賀県長浜市高月町森本95番地	1,663	4.00
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	1,256	3.02
日本産業第二号パラレル投資事業有限責任組合	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	1,244	2.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,060	2.55
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	500	1.20
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	339	0.81
木下 武彦	滋賀県長浜市	314	0.75
大塚 裕司	東京都新宿区	278	0.66
計	—	27,063	65.15

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	A種優先株式 15,000,000	—	1 [株式等の状況]の(1)「株式の総数等」に記載しております。
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 20,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,538,000	41,538	—
単元未満株式	普通株式 53,458	—	—
発行済株式総数	56,611,458	—	—
総株主の議決権	—	41,538	—

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式 963株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) エルナー株式会社	横浜市港北区新横浜 三丁目8番11号	20,000	—	20,000	0.03
計	—	20,000	—	20,000	0.03

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

退任取締役

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	上席執行役員 プリント回路事業本部長 兼資材部長	森内 孝	平成25年6月30日

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,563	2,586
受取手形及び売掛金	5,525	6,190
商品及び製品	2,727	2,149
仕掛品	1,312	1,313
原材料及び貯蔵品	1,636	1,680
その他	455	445
貸倒引当金	△60	△47
流動資産合計	14,160	14,318
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,486	3,480
機械装置及び運搬具（純額）	3,582	3,586
土地	2,330	2,340
建設仮勘定	38	417
その他（純額）	423	540
有形固定資産合計	9,861	10,366
無形固定資産		
のれん	32	24
その他	135	140
無形固定資産合計	167	164
投資その他の資産		
投資有価証券	152	173
その他	202	217
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	354	390
固定資産合計	10,382	10,921
資産合計	24,543	25,239

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,479	4,439
短期借入金	4,023	4,059
1年内返済予定の長期借入金	3,510	3,204
1年内償還予定の社債	919	777
未払法人税等	56	76
その他	1,102	1,705
流動負債合計	14,091	14,263
固定負債		
社債	832	440
長期借入金	3,183	4,723
再評価に係る繰延税金負債	213	213
退職給付引当金	1,664	1,664
その他	263	333
固定負債合計	6,157	7,374
負債合計	20,249	21,638
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,508	3,508
資本剰余金	496	496
利益剰余金	569	△191
自己株式	△4	△4
株主資本合計	4,570	3,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10	6
土地再評価差額金	395	395
為替換算調整勘定	△680	△621
その他の包括利益累計額合計	△294	△219
新株予約権	6	11
少数株主持分	12	—
純資産合計	4,294	3,601
負債純資産合計	24,543	25,239

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	15,163	13,339
売上原価	13,184	12,199
売上総利益	1,979	1,139
販売費及び一般管理費	※1 1,485	※1 1,412
営業利益又は営業損失(△)	493	△272
営業外収益		
受取利息	1	2
受取賃貸料	4	7
助成金収入	2	9
その他	15	15
営業外収益合計	23	35
営業外費用		
支払利息	223	252
為替差損	18	114
その他	145	97
営業外費用合計	388	464
経常利益又は経常損失(△)	128	△701
特別利益		
固定資産処分益	2	0
特別利益合計	2	0
特別損失		
固定資産処分損	0	5
投資有価証券評価損	2	0
特別損失合計	2	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	128	△707
法人税、住民税及び事業税	94	32
法人税等調整額	△112	5
法人税等合計	△18	38
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	147	△745
少数株主損失(△)	△70	△13
四半期純利益又は四半期純損失(△)	218	△731

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	147	△745
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	16
為替換算調整勘定	28	60
その他の包括利益合計	34	76
四半期包括利益	182	△668
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	248	△656
少数株主に係る四半期包括利益	△66	△12

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	128	△707
減価償却費	898	831
のれん償却額	7	7
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3	△13
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△14	△1
受取利息及び受取配当金	△3	△4
支払利息	223	252
為替差損益(△は益)	61	203
固定資産除売却損益(△は益)	△2	4
投資有価証券評価損益(△は益)	2	0
売上債権の増減額(△は増加)	△198	△283
たな卸資産の増減額(△は増加)	163	868
仕入債務の増減額(△は減少)	△18	△465
その他	117	96
小計	1,369	788
利息及び配当金の受取額	3	4
利息の支払額	△226	△248
法人税等の支払額	△39	△26
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,107	517
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
固定資産の取得による支出	△622	△839
固定資産の売却による収入	3	1
その他	△3	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△624	△851
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2,475	△254
長期借入れによる収入	4,477	3,830
長期借入金の返済による支出	△2,725	△2,607
社債の発行による収入	1,829	—
社債の償還による支出	△232	△534
配当金の支払額	—	△30
その他	△11	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	860	385
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	△27
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,360	23
現金及び現金同等物の期首残高	1,419	2,113
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 2,779	※1 2,136

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
(連結納税制度の適用) 第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形割引高	324百万円	351百万円
うち、期末日(銀行休業日)期日 の手形で手形交換日に決済処理 した受取手形割引高	52百万円	56百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
荷造運賃発送費	196百万円	172百万円
給料諸手当	474百万円	448百万円
退職給付費用	22百万円	23百万円
減価償却費	17百万円	22百万円
研究開発費	195百万円	171百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)
現金及び預金	3,229百万円	2,586百万円
預入期間が3か月超の定期預金	△ 450百万円	△450百万円
現金及び現金同等物	2,779百万円	2,136百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年3月28日 定時株主総会	A種優先株式	利益剰余金	30	2.00	平成24年12月31日	平成25年3月28日

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	コンデンサ	プリント回路	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,564	10,598	15,163	—	15,163
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,564	10,598	15,163	—	15,163
セグメント利益	307	185	493	—	493

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	コンデンサ	プリント回路	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,068	8,270	13,339	—	13,339
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,068	8,270	13,339	—	13,339
セグメント利益又は損失(△)	296	△569	△272	—	△272

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該取引の契約額その他の金額に前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは以下のとおりであります。

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度（平成24年12月31日）

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外 の取引	通貨スワップ				
	タイバツ	1,600	904	△159	△159
	マレーシアリングット	1,424	749	△61	△61
合計		3,025	1,654	△221	△221

(注) 1. 時価の算定方法

通貨スワップ契約を締結している金融機関から提出された価格によっております。

2. 上記通貨スワップ契約における契約額は、この金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスク量を示すものではありません。

当第2四半期連結会計期間末（平成25年6月30日）

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外 の取引	通貨スワップ				
	タイバツ	1,566	982	△302	△302
	マレーシアリングット	2,771	2,097	△299	△299
合計		4,338	3,079	△601	△601

(注) 1. 時価の算定方法

通貨スワップ契約を締結している金融機関から提出された価格によっております。

2. 上記通貨スワップ契約における契約額は、この金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスク量を示すものではありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失(△)	5円24銭	△17円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失(△)	218百万円	△731百万円
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)	218百万円	△731百万円
普通株式の期中平均株式数	41,591,937株	41,590,722株
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	3円85銭	—
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額	—	—
普通株式増加数	15,000,000株	15,000,000株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成24年3月29日開催の定時株主総会決議の新株予約権 (新株予約権の数 370個)	—

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

第1 【保証会社情報】

1 【保証の対象となっている社債】

社債の名称	発行年月日	券面総額 (百万円)	償還額 (百万円)	当第2四半期会 計期間末現在の 未償還額 (百万円)	上場金融商品取引所又 は登録認可金融商品取 引業協会名	保証会社
エルナー株式会社 第1回無担保社債	平成22年 6月30日	750	750	—	上場及び登録はしてお りません	三井住友信託 銀行株式会社
エルナー株式会社 第2回無担保社債	平成24年 3月30日	749	412	337	同上	同上
エルナー株式会社 第3回無担保社債	平成24年 6月7日	1,100	220	880	同上	同上

2 【継続開示会社たる保証会社に関する事項】

(1) 【保証会社が提出した書類】

① 【有価証券報告書及びその添付書類又は四半期報告書若しくは半期報告書】

有価証券報告書 第1期 自 平成24年4月1日 平成25年6月28日
至 平成25年3月31日 関東財務局長に提出

② 【臨時報告書】

臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条
第1項及び第2項第3号(特定子会社の異
動)の規定に基づく臨時報告書 平成25年7月26日
関東財務局長に提出

③ 【訂正報告書】

該当事項はありません。

(2) 【上記書類を縦覧に供している場所】

金融商品取引法の規定による備置場所はありません。

3 【継続開示会社に該当しない保証会社に関する事項】

該当事項はありません。

第2 【保証会社以外の会社の情報】

該当事項はありません。

第3 【指数等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 9 日

エルナー株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 川 卓 哉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 田 高 弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエルナー株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エルナー株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。